

## 第五次総合計画 第1回 長井市振興審議会議事録

開催日時：平成24年3月29日（木） 午後6時00分～

開催場所：（財）置賜地域地場産業振興センター 3階「アゼリア」

出席者：23名（別紙委員名簿のとおり）

### 次 第

- 1 開 会
- 2 長井市振興審議会委員の任命
- 3 あいさつ（市長）
- 4 長井市振興審議会について（事務局）
- 5 長井市振興審議会 会長等の選出
- 6 協 議
- （1）これまでの長井市総合計画について（事務局）
- （2）長井市のまちづくりについて（市長）
- （3）意見交換（審議会委員）
- （4）次期総合計画策定作業テーブルについて（事務局）
- 7 諮 問
- 8 その他
- 9 閉 会

### 1．開会

（司会） 本日は、年度末の大変お忙しいところ、第五次総合計画、第1回長井市振興審議会にお越しいただきまして大変ありがとうございます。ただいまから第1回長井市振興審議会を開会したいと思います。最初に長井市振興審議会委員の任命ということで、長井市長の方から辞令の交付をさせていただきますと思います。

### 2．長井市振興審議会委員の任命

15名の委員（2名欠席、1名遅れて出席）に辞令の交付を行った。

（司会） 本日、別会議のために2名の方が欠席されておりますが、後程辞令の交付をさせていただきますと思います。それでは、長井市長 内谷 重治よりごあいさつを申し上げます。

### 3．あいさつ（市長）

（内谷市長） 皆様、お晩でございます。本日はめっきり春らしい、いよいよ長い冬が明けたのかな、というような大変うれしい気候でございましたけれども、皆様には年度末、また、期末の大変お忙しい中、しかも夕刻の貴重なお時間に、第1回目となります長井市振興審議会にご出席をいただきまして厚く御礼申し上げます。また、ただ今は、振興審議会の委員としてご委嘱をさせていただきましたが、快くお引き受けいただきまして、重ねて厚く御礼申し上げます。

さて、今日の日程の中で、私の方から長井市のまちづくりについてということで、皆様との意見交換も含めまして30分ほど時間を頂戴しておりますので、挨拶の方は簡単にさせていただきますと思います。私も長井市は平成8年位からなのですが、財政が非常に厳しくなりまして、私も含めて3代の市長にわたって行財政改革を進めざるを得ない状況でございました。特に一番厳しかったのが平成16年、これは長井市が年間に返済するいわゆる借入れの部分（公債費という言い方をしておりますが）これが27億ほどございました。現在が11億前後、ここ5年位はそういう状況でございますので、いかにその当時に償還金が集中してしまったか、ということになるかと思います。また、平成18年でございますが、（北海道の夕張市の財政破たんが明らかになった年です。）私も地方自治体の監督省庁として総務省があるわけですが、やはり隠れた負債がいろいろあるのではないかとということで、実質的な借金の比率はどのくらいあるのかということで（専門用語で実質公債費比率という言い方をしておりますが）全ての市町村のデータが明らかにされました。当時は1,900位の市町村がございましたが、私も長井市はワースト11ということでこの比率が27.7%でした。後程少しお話しさせていただきますが、お陰様で平成24年度は普通の市町村として自立できるようになります。これは、この比率というのが18%という一定の基準がございしますが、18%以下になりますと国から承認をいただくというよりも協議をして届出をすれば様々な事業をする際の借入れを認めていただけるというわけです。今までは国・県にお伺いを立てて、仕方ないだろうということで認めていただいていたわけですが、今度は自主的な判断でできる。その比率をわずかに下回る17.9%まで改善したところでございます。この間には市民の皆様のご協力があってこそ実現できたわけでございます。そして現在は平成15年度に策定いたしました第四次総合計画、これに基づいて市政運営、あるいはまちづくりを展開しているわけですが、この最終年度が平成25年度でございます。平成15年度に策定しまして、平成16年度から平成25年度までの10年計画でございました。そしてこの度皆様にご委嘱申し上げましたのは、この次の第五次総合計画、これは平成26年からなるわけでございますが、足掛け（今年度も含めると、まあ、今年度は今日も含めてあと三日で終わるわけでございますけれども）三年間をかけまして、現在の長井、あるいは地方自治体を取り巻く状況等をしっかりと検証いただきながら、課題を抽出して、課題解決のための様々な施策の展開について、あるいはまちづくりの手法について、皆様からご審議を賜りたいと思います。そして、実質的には2年間かけまして、26年度からの10年を想定しておりますが（これらについても何年間を想定するかということもございします。後程担当の者から説明させますが）今まで4回の総合計画を策定している中で、基本構想としては20年を超える基本構想を策定した計画もございました。実質的には大体10年間の計画を作るわけですが、私といたしましては全ての計画それぞれが時代時代に合った、あるいは私ども長井の実情に合った素晴らしい計画であったという風に思いますが、どうしても第四次総合計画は財政再建の期間中でしたので、具体的な施策の展開がなかなか難しかったこともございします。しかし、お陰様で平成24年からは普通の市町村並みになりましたので、必要なところはしっかりとハード事業も含めてすべきところはしなければいけないのではないかなと考えているところでございます。私が市長に就任させていただいて2期目、6年目に入ります。私も施政方針等々説明などもさせていただきながら、是非皆様には（施政方針とか私の考えは別として）長井のためにあるいは市民の幸せのために何が必要かという視点から忌憚のないご意見をいただきながら、そして、ご指導ご鞭撻いただきながら、これからの長井の未来を、そしてそのグランドデザインを是非、ご指導賜りますよ

う、お願い申し上げます。これから2年間のおつきあいを是非させていただきたいと思いますので、何卒ご尽力の方お願い申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。どうぞよろしくお願い致します。

(司会) それでは、続きまして4.長井市振興審議会についてということで、企画調整課長の方からご説明申し上げます。

4.長井市振興審議会について(事務局) 資料 No.1 を元に説明した。

5.長井市振興審議会 会長等の選出

(司会) それでは、5.長井市振興審議会 会長等の選出に入ります。ただいまご説明申し上げましたとおり、条例の第4条 審議会に会長を置き、委員の互選によってこれを定める、というような規定がございます。それで、この会で、委員の互選で会長を決めていきたい、という風に思いますが、自薦、推薦どちらでも結構ですので、どなたかいらっしゃいませんか。

(委員) Aと申します。私の方から会長さんのご推薦を申し上げたいと思います。会長には、山形大学人文学部副学部長の北川先生をご推薦申し上げます。理由は、何よりも北川先生は卓越した識見と責任感をお持ちであり、長井市との関わりも深く、平成21年度には長井市経済再生戦略会議、平成22年度からはながい市民未来塾において地域コミュニティに基づいたまちづくりについてゼミを継続して開催していただいているとお聞きしております。また、今事務局から説明がありましたように、条例の第5条を見ますと、第一号、第二号委員は、委員会や団体からの選出であり当該職の任期があります。したがって、第一号、第二号委員は途中で代わってしまう、ということも考えられますので、会長は第三号委員から選出すべきであると考えます。今、日本は急激な少子高齢化、福祉と財政の問題、経済のグローバル化と国際競争の激化、政治の低迷等、厳しい状況の中にあり、これからの長井市の未来について市民のニーズを把握し、市民が幸せに暮らせるまちを目指して総合計画を取りまとめていただくために、北川先生が会長に最適任であると思いますのでご推薦申し上げます。なお、お聞きしますと先生は4月から人文学部長にご就任なさることです、大変お忙しくなることとは存じますが、長井市の発展のために是非お力を貸していただきたいと存じます。どうかよろしくお願い致します。以上、ご推薦申し上げます。

(司会) ありがとうございます。皆様いかがでございましょうか。(異議なしの声多数) それでは、皆様の拍手でご承認いただきたいと思います。(拍手多数) ありがとうございます。会長には三号委員から北川忠明先生ということでよろしくお願いいたします。それでは、会長にご就任されます北川先生に一言、ごあいさつをいただきたいと思います。先生、よろしくお願い致します。

(会長) 大変光栄に存じます。微力ではございますが、一生懸命会長職を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。(拍手多数)

(司会) それでは、(2)の会長代理ということで、これは第4条3項に「会長の指定する委員」という規定がございますが、これは北川先生の方からよろしくお願い致します。

(会長) はい、今ご説明ありましたけれども、代理なのですが会長が指定するということになっております。本日は第一回目でございますし私も初めて顔を拝見する方もいらっしゃいますし、ご欠席の方もいらっしゃいますので、次回までに私の方で決めさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(司会) ただいま、北川先生の方から、次回までに検討してというようなことでございますが、よろしいでしょうか。(異議なしの声) はい、それでは会長一任ということで、次回までよろしく願いいたします。それでは6.協議になります。ここからは、会長の北川先生の方で取りまとめをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 6. 協議

(会長) それでは、早速協議のほうに入らせていただきたいと思います。(1)の長井市総合計画については事務局の方から説明をお願いいたします。

(1) これまでの長井市総合計画について(事務局) 資料 No.2 を元に説明した。

(会長) どうもありがとうございました。ただいま第一次から第四次までの総合計画の概要についてご説明いただいたのですが、それにつきましてご意見はまた後で賜るということにいたしまして、この5年間長井市政を担当されてきた内谷市長さんからお話を聞かせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(2) 長井市のまちづくりについて(市長) 映像を交えながら説明した。

(会長) 内谷市長さん、ありがとうございました。私は今、内谷市長さんから様々な課題についてお話をしていただきましたが、人口三万人規模の美しい小都市が今後ずっと子々孫々まで持続していく、更に幸福(しあわせ)を感じられる、より良い“まち”、皆が住み続けたいと思う“まち”を作っていくには、西置賜だけでなく山形県、ひいてはやっぱり東北地方全体にとって決定的人数というのが時代の背景にあるという風に思っております。確かに今のお話にありましたように地方の小都市を取り巻く環境というのは大変厳しくて、持続可能性を脅かす要因、人口減少、少子化、グローバル化、TPP、中山間問題等、大変厳しい環境におかれているのは事実であります。でもですね、今までの第一次から第四次までの総合計画、それから内谷市長さんの行財政改革ですね、実質公債費比率を通常数値まで下げるといって、血の出るような改革努力といたしますが、汗を流してこられたご苦労があって、今日の長井市があると思うのです。この振興審議会では長井市の各界のキーマンになっておられる方が委員になっていただいておりますので、これから第五次総合計画の策定にあたって様々な審議をしていただくことになるわけです。そこで、これまでの経過、それから現状、将来予想、様々な課題解決、方向性について、ちょっとお時間をいただいて、皆様の委員の方々のご意見、ご質問でも結構ですしご要望でも結構です。これから審議をするにあたって、まだ第一回目ですけれども、お話しいただければと思います。

### ( 3 ) 意見交換 ( 審議会委員 )

( 委員 ) Bですが、私、ずっと教育畑にいましたのでその範囲でしかわからないのですが、二点だけ。一点は第四次が終わるわけなんです、第四次がどうだったのかという総括は、今市長さんがお話になられた課題とか、そういうところに盛り込まれているんだ、というような理解でよろしいのかどうかというところをお聞きしたい。それからもう一つ、これは意見であります、市長さんにお話をいただいて、なるほど、と思いながら聞かせていただいたんですが、その中でいくつか感じた中の一つなんです「日本一幸せに暮らせるまち」というのは本当にいいテーマだし是非そうありたいと思うんです。その時に高齢者ということについては、高齢化率が非常に高くなって、という問題点として捉えられたわけなんです、日本一幸せに暮らせるということは、どういう形をイメージするか、という。確かに子育てもイメージの中に入るんですが、安心して老後まで暮らせる、ということもそのイメージの一つではないか、という風に考えると、死ぬまで安心して暮らせるまち、という風に考えて、それをイメージできるようなものが欲しいな、と感じました。そのことについては決して医療費等の財政的な支援だけでなく、例えば高齢者同士が交流できるような場を作るとか、そういうことも含めて、財政的な問題なしに安心感を得る方法というのはいろいろあるかと思うんですが、そういう面でのこれからのあり方、幸せというところでは考えていかなければいけない部分ではないかな、という風に感じたうちの一つでした。まずは二点だけ。

( 内谷市長 ) 大変貴重なご意見、ありがとうございます。二点いただきまして、総括については後程企画調整課長の方からお答えさせていただきますが、私が簡単に申し上げますと、第四次総合計画については、財政再建中ということもあり、あまり具体的な目標というものが示されていない計画だったな、と思います。しかし、私どもが事業に予算をつけるときにまず、第四次総合計画に照らし合わせながら、( 内部でございまして ) 様々なことを検証して評価をそれなりにしながら、次の年度の予算の査定に使いながら必要なものは更に、必要のないものはそこでなくすと、そういったことを進めてまいりました。結果として大まかな部分はそれなりに実現していると思いますが、同じように総括についてもこの2年間でしっかりとしなければいけないと考えております。最後に、2点目の部分でございまして、幸せというイメージでございまして、これはB委員がおっしゃるとおり、人それぞれ価値観が違うと思います。例えばですね、先ほど雇用の部分で長井の雇用はまず製造業を基本として、農業ももちろんなんです、いろんなサービス業、商業、そういったところの、まあ、いわゆる様々な活性化によって若い人とか仕事を求める人がちゃんと仕事をする事ができる、そういう社会を、長井を作ろうと思っておりますが、私は幸せの一番の根本というものは、働きたい人が働ける、ということだと思います。失業者が幸福なんてことはないのだ、と私は思っております、例えば幸福論、幸せ論というのはいろんな先生方がおっしゃっておりますが、草郷先生という関西大学の先生の話だとか書籍を色々と勉強させていただいておりますが、それが基本です。

ただ、高齢化社会は否応なしに進みます。一番難しいところは、高齢者だけの世帯がどんどん増えているということとして、ここの部分を例えば施設介護で面倒を見るのか、そんなこともありますので、できるだけ介護の必要がないように交流の場とか、あるいはどういう風にして健康

を保つか、ということなども必要だと思います。例えば高齢者の施設でしたらそういったところで、そっちの雇用があるんだろう、様々な議論がなされなければいけないと思っていますが、やっぱりその人らしく暮らせる。年をとっても若くてもですね。そういうイメージなんですけれども、そういうまち、自由なまち、そして働きたいときに働ける、生活の糧を得ることができる、それを基本として考えていきたいなと考えているところでございます。

（企画調整課長） B委員から、現計画の評価、考察が成されるべきだというお話だったと思います。これについては次回の審議会において、市のほうで現在の計画を進めるにあたり実施計画というものを作っておりますので、これについての推移をお示ししたいと思います。また、基本計画では人口目標、あるいは第一次、第二次、第三次の産業予定人口、製造品出荷額、商業、商品出荷額等々の目標値を示します。これについての今までの推移、現在の状況、先ほど市長からは第二次産業の就業者人口のお話がありましたが、製造品出荷額ですと平成11年には827億ありましたが、現在では600億切るといような状況でございます。その各分野の、あるいは健康面、福祉政策面等々の数値をお示ししながらご確認いただいてご意見をいただきたいと思います。

（会長） どうもありがとうございました。B委員のご質問はこれまでの総合計画の総括、特に第四次計画の総括が踏まえられなければならないという非常に重要なご提案、それから将来の社会の、長井市のビジョン、幸せの実感といいますか、そういったビジョンに関するものでしたが、関連したご質問などはございましたらお願いします。

（委員） Cです。よろしくお願いします。今回の計画策定にあたりまして、これまでと大きく違うのは「まちづくり基本条例」の存在じゃないかなと思っています。第四次計画の一つの柱であり、また、この条例は確か長井市の最高規範という位置付けをされていまして、この審議会そのものがその条例の中で規定されています。運営についても公募の原則、情報開示、会議の原則開示といったものも定められています。本日山形新聞の支社長さん傍聴されているように、開示ということではあるんですけれども、やはり市民参加そのものとして運営も私たち意識しながらやっていくことが大事なのかな、と思っているところです。先ほどのB委員の意見の中で、これまでの評価というお話がありました。やはり基本条例の中には効果と共に効率性ということも評価基準として挙げられているということで、時間的なことも考えたり、他の手法がなかったのかというシビアな検証も必要になり、また、そういったものを次期の総合計画の中にも評価の仕組みだったり見直していくような、そういう仕組みをですね、開発していったり盛り込んでいくことが大事かな、と思ひまして、冒頭にあたり委員の皆さんと共有させていただければと思い、ご意見させていただきました。

（会長） どうもありがとうございました。確かに総合計画づくりですね、市民の方に情報を開示して、市民の方にいろいろ意見を聞いていくのは絶対に必要なことだと思いますので、各分野の貴重なご意見を言っていただければと思います。

（内谷市長） ちょっとだけよろしいですか。

(会長) はい。

(内谷市長) 貴重なご意見ありがとうございました。これから第五次総合計画の内容について皆様からご審議いただくわけですが、まちづくり基本条例、これはおっしゃるとおり市で言えば“憲法”にあたる部分であろうと思います。最重要部分であります。これは平成17年に策定したのですが、(これは市当局の方で出してきたんですが)実は私、当時市議会議員をさせていただいておりまして、私も視察に行ってきた、北海道のニセコ町に非常に影響を受けました。ニセコ町の手法で長井もまちづくり基本条例を作ればいいんだ、と複数の議員で建議させていただいて、当局の方で、当時の企画調整課を中心にまとめていただいたものであります。その中で一番重要なのは、どのようにして市民の皆さんのまちづくり参加を得るか、あるいはこういった基本条例等々の情報公開、審議会でどういうご意見があったかということとか、パブリックコメントも含めて重要だと思っておりますので、これを基本にしていきたいと思います。なお、今回第五次の計画で、私個人の意見としましては、今までなかった地域計画を是非、取り込むべきではないかな、という風に思っています。それは、第四次総合計画は私も当時、議員の一員として見させていただいて、どうも内部で作った感が強かったんですね。当然地域の計画が、長井市全体の計画なんですけど地域の計画が盛り込まれていないということでありまして、私は、中央地区はどうすべきか、これは中央地区の皆さんで考えていただく。あるいは平野とか西根とかいろんな地区がございますが、それらの地域は要望事項ではなくて、地域の将来目標として住民の皆さんが意見交換をしながらまとめていただいたものを計画として載せたい。そしてたとえば今、伊佐沢地区等は特に進んでおりますけれども、自分たちでテーマを設けまして、それぞれこういう部分は行政に支援してもらおう、しかし自分たちでこういうことをやろうと、具体的に進めている例などもございますので、そういった部分も次期に盛り込めれば、本当に市民と一緒に作って作った計画になるのではないかなと考えているところでございます。

(会長) どうもありがとうございました。いかがでしょう。まちづくりの基本的なあり方についてご質問、検討課題がありましたけれども、第四次総合計画の総括というのは8年前と比べましてものすごく大きな社会的な環境変動がありますので、本編を総括するというのは、次回、遠藤課長がおっしゃったようにその辺を踏まえながらうまく評価し、是正していく、そういうサイクルを考えていく時代だというご発言であったと思います。他にいかがでしょうか。

(委員) Dです。やはりイメージとしてはわかるんですけども、全てがですね、ビジョンの前のあいまいなところとしか受け止められない、という感じが致します。例えば市長さんがおっしゃられる「日本一幸せに暮らせるまち」で、価値観というのもおっしゃったように皆違う、これ一つとっても大変な話と思うんです。私自身は、

この前テレビを見ていまして、「Are you happy?」(あなたは幸せですか?)というのを世界各国で質問して、「私は幸せです。」と言うまでの時間を計ったら日本は70番台だったんです。一番はコスタリカで、「あなたは幸せですか?」と聞いたら「私はものすごく幸せです。」と、で、コスタリカに私は行ったことないんですけども、まあ失業率が高いは、離婚率が高いは、

というようなところですね、それでも世界一で、瞬間に「私は幸せなんです。」という言葉があるんですね。アメリカなんて100番台で、日本より悪かったですね。ものすごく考えて、「ひょっとして私は幸せなのかな。」と言う時間がすごくかかって、日本は4秒くらいでしたかね、「まあ、幸せです。」と。まあこういう風なことで、この「幸せに暮らせるまち」一つとりましても、まさに市長おっしゃられた価値観というのかな、この辺のところを一つ限定してやらないと、やっぱり違うっていうんですかね。ここに集約されているのは、日本人が、我々が、今迷っているのはですね、物質的な裕福さというのが本当に幸せなのかな、ということが皆、疑問に思っていて、それまではイケイケドンドンで何か欲しいものがあって、「とにかく裕福になりましょう」、っていういわゆる先進国じゃなくて途上国の物の考え方で日本がここまで来てですね、このままでいいのかな、っていう一つの何かこう壁がある。そこで（幸せですと答えるまでに）時間がかかる。そういう意味で、じゃ長井というのは一体どこまでを目指すの、と言った時に市長がおっしゃられた話を聞いていますと全てハッピーな話で、全て盛り込まれているというような気がいたします。乱暴な言い方で言ったのは、半分は冗談で、そういうこと（理想）がないと進めないということは私知っているつもりでいるんですけれどもね。但し、やはりですね、こういう話は施政方針の中であってしかるべきなんですけれども、気持ちはわかるけれども、じゃあどうやって進めていくの、というのは大変な問題だな、と。その時にやはりこう長井の特徴というものをもうちょっと絞っていかないといけないのかな、と。

たまたま最近読んだ新聞なんですけれども、防衛大学の学生だったかな、東日本大震災の総括はまだされてなくて、10年以上前の阪神淡路大震災の総括の時にですね、がれきで潰れたところから助け出された人を助け出した人達の割合の77%が自助あるいは他助、近所の人たちが助け出した。行政は全然間に合わなかった、あれは時間の問題なんです。要は周りの近くの人たちが助けたんですね。それからですね、もう一つ面白いこと言ったのは、格差があって、お祭りがあるところが非常に救出率が高かった。どういうことかと言ったら、お祭りがありますとあその隣のお家にはおじいちゃん・おばあちゃんがいるよ（とわかる）、じゃあ助けようじゃないか、というような話ですね。やはりコミュニティの絆というんでしょうかね、町内会がある、そういう風な中ですね。

この前は石原慎太郎都知事が東京都も隣組を作ろうじゃないか、こういう風なことをおっしゃっている。「あれ？」と思ったんですけど、実は私長井の人間ではないんですけれども、こちら来た時にものすごく面倒くさかったんですよ、隣組が。何が悲しくて隣組の人を結婚式に呼ばなくちゃいけないんだ、と思っていた人間がですね、あれ？、世界の大都市というところで（隣組制度が）ものすごく生きそうだな、と。長井は当然もうあるじゃないか。隣組があっても面倒くさいなあと思いながらもしっかりやっているし、お祭りもあるし、そうするとですね、今長井が、こういう小さいまちが目指すところというのはやっぱり違うことであって、というような絞り方とかですね、そういう風なこともチラッとだったりしております。

確かに企業がいっぱいいて、人口も増えて、財政も安定してということもわかるんですけれども、私はたいてい減ると思いますよ。人口いくら増やせていってもね、私の年ではもう無理ですしね、今から減るのは当たり前です。減るのを前提にしながら、それでもね、例えばの話、山形県に長井っていうところがありますよ、というようなものがないとなかなかですね、反対するようなことが何もないんですね。先ほどの総括するにしたって、総括できないのでは、というのが本音のところ。また第六次になったらね、第五次を総括できないまま進む、ということにも



なりかねない。という気がしておりまして、この辺でやめておかないと話が止まらなくなるものですから、ここまでにしておきます。

(会長) 貴重なご意見をいただきました。ただ、総合計画をつくるというのは、ただ単に行政だけでつくる、市長さんがつくる、そういうものではないと思います。将来のビジョンを作るというのは市民の方、各組織の代表といわれる方々の叡智を結集してですね、いかなければならない、非常に難しい問題、難しい時期になっているんです。昔の右肩上がりの時代だったら簡単です、これは。そうじゃない時代を迎えている。市長さんのお話にあったように本当に難しい時代で、計画作りというのは本来あるべき計画作りに近づけていかないと、皆参加して実行していくような形に近づけていかないと難しい問題だなと、その辺のところは大いに議論したらいいんじゃないかなと思います。

時間が押してきました、第一回目、もっともっと議論ができそうな気がするんですが、大変重要な情報いただきましたので、意見交換につきましてはこれからも継続するということで、今回はここで終わらせていただきたいと思います。(4)次期総合計画策定作業テーブルについて事務局より説明ねがいたいと思います。

(4)次期総合計画策定作業テーブルについて(事務局) 資料 No.3 を元に説明した。

(司会) それでは7の諮問ということになります。

7. 諮問 長井市長より長井市振興審議会会長 北川忠明氏に諮問を行った。

(会長) それではこれで、本日第一回長井市振興審議会を大体これで終了いたしました。8.その他につきましては先ほど遠藤課長の方からありましたように、次回6月下旬を目処に開催させていただきたいと思います。その時は第四次計画の総括についてご審議いただきたいと思います。その時に会長代行についても私のほうからご指名させていただきたいと思います。今後ともどうぞよろしくをお願いします。

(司会) 長時間にわたり慎重な審議をいただきありがとうございました。それではこれで第一回長井市振興審議会を閉会いたします。どうもありがとうございました。

(午後7時47分終了)